

起 債 状 況

(単位・億円、カッコ内純増額)

	53年		53年		
	4~6月	7~9月	7月	8月	9月
事業債	3,210	3,370	1,030	1,230	1,110
うち電力	(1,299)	(1,053)	(284)	(490)	(279)
一般	2,120	1,900	610	550	740
地方債	(1,250)	(817)	(255)	(187)	(375)
政保債	1,090	1,470	420	680	370
	(48)	(236)	(29)	(303)	(96)
計	7,906	8,500	2,480	2,865	3,155
	(5,168)	(4,976)	(1,455)	(1,808)	(1,713)
金融債	25,473	26,270	9,632	8,139	8,499
うち利付	(3,956)	(5,424)	(1,950)	(1,533)	(1,941)
新規中・長期国債	8,428	9,335	3,080	2,882	3,373
うち証券会社引受	(3,179)	(4,341)	(1,607)	(1,132)	(1,602)
転換社債	37,778	24,784	7,784	8,000	9,000
	(37,635)	(24,784)	(7,784)	(8,000)	(9,000)
	8,580	6,384	3,284	1,900	1,200
	880	755	25	400	330

実体経済の動向

◇生産・出荷とも増加

(生産—増加)

8月の鉱工業生産(速報、季節調整済み(注)、前月比)は、+0.9%(船舶を除くと+1.0%)と前月減少(-0.8%)のあと再び増加した(前年同月比+5.6%)。

(注) 以下増減率は特に断わらない限り前月比または前期比(物価を除き季節調整済み)。

8月の生産を財別にみると、資本財輸送機械が横ばいとなり一般資本財が減少したのを除き、他の財はいずれも増加した。すなわち、建設財は、H形鋼、板ガラス等が減少したものの、反面公共投資関連資材(コンクリート管、コンクリートパイプ、小形棒鋼)、住宅関連資材(アルミサッシ、アルミドア、ガス風呂がま)等の増加したことを主因に+1.5%と前月微減のあと再び増加となり、耐久消費財も、小型自動車、二輪車、カメラ、暖ちゅう房機器等が増加したことから+2.1%と前月減少(-0.9%)のあと再び増加した。また、非耐

鉱工業生産の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)比増減(-)率・%)

	52年		53年		53年		
	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	6月	7月	8月
鉱指数	115.1	116.8	120.2	122.3	122.4	121.4	122.5
工業前期(月)比	-0.2	1.5	2.9	1.7	0.0	-0.8	0.9
業前年同期(月)比	2.1	2.1	4.2	6.1	5.8	7.0	5.6
投資財	0.5	2.4	3.4	1.5	-0.8	-0.6	0.3
資本財	1.5	2.5	3.7	2.4	-1.7	-0.7	-0.4
同(輸送機械を除く)	0.8	2.7	6.4	4.0	-1.0	-1.3	-1.1
輸送機械	4.0	1.6	-5.1	-0.6	-3.3	1.3	-0.1
建設財	-1.5	2.4	3.1	-0.8	0.8	-0.1	1.5
消費財	0.0	2.6	4.3	1.0	1.7	-3.2	1.6
耐久消費財	0.9	4.8	3.0	3.3	1.6	-0.9	2.1
非耐久消費財	-0.8	1.3	4.8	0.0	0.3	-4.1	1.4
生産財	-0.7	0.4	2.0	1.5	-0.5	0.5	1.4

(注) 1. 通産省調べ。53年8月は速報。
2. 前年同期(月)比は原指数による。

久消費財が服類、家庭用合成洗剤等の増加を主因に+1.4%と増加したほか、生産財も、鉄鋼素製品(銑鉄、粗鋼、フェロアロイ)、非鉄地金(亜鉛、アルミ)、自動車部品(鉛電池、自動車部品、強化ガラス)等が減少した反面、鉄鋼製品(鋼板、鋼帯、ブリキ、亜鉛メッキ鋼板)、非鉄加工品(アルミ圧延品、伸銅品、銅電線)、プラスチック(フェノール樹脂、ポリエチレン)等が増加したことを主因に+1.4%と前月に続き2か月連続の増加となった。一方、一般資本財は公共投資関連機器(装軌式トラクター、ショベル系掘削機、圧縮機・送風機)や電力投資関連機材(電力・通信ケーブル、標準変圧器)等が増加した反面、事務用機械(電卓、複写機<直接式>)、電子計算機(電子計算機本体、外部記憶装置、入出力装置)、機械プレス等が減少したため-1.1%と4か月連続減少した。この間、資本財輸送機械は乗用車、バス、トラックが増加した反面、船舶、鉄道車両が減少したことから前月増加のあと横ばい(-0.1%)となった。

(出荷—増加)

8月の出荷(速報)は+0.7%(船舶を除くと+0.7%)と前月減少のあと再び増加した(前年同月比+5.4%)。

鉱工業出荷の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)比増減(-)率・%)

	52年		53年		53年		
	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	6月	7月	8月
鉱工業	113.9	115.8	119.6	120.7	121.4	119.9	120.7
指 数							
前期(月)比	0.0	1.7	3.3	0.9	0.2	-1.2	0.7
前年同期(月)比	1.9	2.9	4.2	6.1	6.5	6.7	5.4
投資財	-1.2	4.0	4.1	0.4	-0.5	-1.8	1.4
資本財	-1.0	4.3	5.3	-0.2	-1.3	-1.4	0.7
同(輸送機械を除く)	0.3	4.8	4.1	4.5	2.5	-2.7	-1.0
輸送機械	-3.2	2.8	7.5	-7.9	-7.6	-0.4	5.8
建設財	-0.3	4.0	0.8	1.0	1.7	-1.3	1.7
消費財	1.6	1.0	5.0	-1.0	1.8	-1.4	0.0
耐久消費財	2.6	3.7	4.0	-0.1	3.9	-1.2	-1.6
非耐久消費財	0.2	0.4	4.9	-1.0	0.5	-2.5	1.6
生産財	0.0	0.8	2.2	1.6	-0.2	-1.0	1.8

8月の出荷を財別にみると、一般資本財、耐久消費財が減少したが他の財は増加した。すなわち、建設財は公共投資関連資材(コンクリート管、コンクリートパイル、護岸用コンクリートブロック、セメント、小型棒鋼)、亜鉛メッキ鋼板等が増加したことを主因に+1.7%と前月減少のあと再び増加した。また、生産財も非鉄地金(電気銅、亜鉛、アルミニウム)、機械部品(変速機、スチールチェーン、軸受)等が減少した反面、鉄鋼製品(鋼帯、圧延鋼材、ブリキ)、非鉄加工品(アルミ圧延品、伸銅品、銅電線)、プラスチック(フェノール樹脂、ポリエチレン、ポリスチレン)、綿・合繊維物等が増加したことを主因に+1.8%と3か月ぶりに増加し、資本財輸送機も船舶の引渡し集中から+5.8%と3か月ぶりに増加した。さらに、非耐久消費財も服類、灯油等が増加したことを主因に+1.6%と前月減少のあと再び増加となった。一方、一般資本財は、土木建設機械、産業用電気機械等が増加したものの前月著増のエアコン(パッケージ型)が大幅減少となったほか、電卓、電子計算機(本体、外部記憶装置、入出力装置)、機械プレスも減少したため、前月に続き2か月連続の減少となり、耐久消費財もエアコン(ウィンド型、セパレート型)、電気冷蔵庫、電子レンジ等が減少したことから2か月連続の減少となった。

(在庫—4か月連続の減少)

8月の生産者製品在庫(速報)は-0.2%と4か月連続の減少(前年同月比-4.2%)となり、同在庫率指数(50年=100)は82.8と前月比1.3ポイントの低下となった。

財別にみると、一般資本財、生産財が減少したものの、建設財、耐久消費財、非耐久消費財は増加した。すなわち、一般資本財は、圧縮機・送風機、コンバイン、金属加工機械等が増加したものの、反面トラクタ(装軌式)、電力通信ケーブル、事務用機械(電卓、複写機)等が減少したため-2.6%と7か月連続の減少となった。また、生産財も鉄鋼製品(鋼板、鋼帯、ブリキ)、化学肥料(尿素、硫安)、製紙パルプ等が増加した反面、鉄鋼素製

(注) 1. 通産省調べ。53年8月は速報。
2. 前年同期(月)比は原指数による。

鋳工業在庫の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)末比増減(-)率・%)

	52年 (期末)		(53年 期末)		53年		
	9月	12月	3月	6月	6月	7月	8月
鋳 指 数	105.4	105.7	103.4	102.5	102.5	101.9	101.7
工 前 期(月)末比	-0.7	0.3	-2.2	-0.9	-1.1	-0.6	-0.2
業 前 年 同 期(月)末比	6.4	3.0	0.9	-3.4	-3.4	-3.9	-4.2
投 資 財	-1.8	-1.4	-4.0	-3.0	-1.5	-1.5	-1.0
資 本 財	-0.1	0.9	-5.4	-3.1	-1.8	-3.4	-1.2
同 (輸送機械 を除く)	-1.0	-2.1	-3.2	-4.9	-1.4	-3.7	-2.6
輸 送 機 械	2.4	5.5	7.5	1.9	4.0	2.0	1.9
建 設 財	-3.6	-5.0	-1.6	-2.8	-1.8	0.4	0.9
消 費 財	-1.3	3.0	-2.1	4.1	-0.3	-1.6	1.0
耐 久 消 費 財	-3.3	1.7	1.8	6.1	1.5	-1.7	1.7
非 耐 久 消 費 財	0.3	2.6	-4.2	3.0	-1.5	-1.0	0.6
生 産 財	0.8	-1.0	-1.3	-3.2	-1.3	0.2	-0.3

(注) 1. 通産省調べ。53年8月は速報。
2. 前年同期(月)末比は原指数による。

品(フェアラロイ、鋼半製品)、非鉄地金(電気銅、亜鉛、アルミニウム)、繊維原料(ポリビニルアルコール、カプロラクタム)、板紙(段ボール原紙、白板紙)等が減少したことを主因に-0.3%と前月増加のあと再び減少した。一方、建設財はH形鋼、小形棒鋼、銅電線、アルミサッシ等の増加を主因に+0.9%と2か月連続の増加となり、耐久消費財も二輪車、小型自動車、カメラ等が増加したため+1.7%と前月減少のあと再び増加した。また、非耐久消費財も服類、メリヤス靴下、家庭用合成洗剤が増加したことを主因に+0.6%と3か月連続の増加となり、資本財輸送機械も小型自動車、小型トラック、ディーゼルトラック等が増加したことを主因に前2か月減少のあと再び増加した。

(設備投資—機械受注は3か月連続の増加)

8月の一般資本財出荷(速報)は、-1.0%と前月に続き2か月連続の減少となった。

これを品目別にみると、土木建設機械、圧縮機・送風機、電力通信ケーブル、産業用電気機械等が増加した反面、前月著増のエアコン(パッケージ型)が大幅反動減となったほか、化学機械、ベルトコンベア、電卓、電子計算機、機械プレス

需要先別機械受注の推移

(季節調整済み、月平均、単位・億円)

	52年		53年		53年		
	10~ 12月	1~ 3月	4~ 6月	6月	7月	8月	
民 需	2,371 (-3.0)	3,069 (29.4)	2,828 (-7.8)	3,089 (15.1)	2,949 (-4.5)	3,885 (31.8)	
同 (船舶を 除く)	2,375 (1.6)	2,892 (21.8)	2,718 (-6.0)	2,824 (6.9)	2,895 (2.5)	3,812 (31.7)	
製 造 業	888 (-8.1)	1,119 (26.0)	1,006 (-10.1)	1,041 (8.1)	1,006 (-3.3)	1,199 (19.1)	
非製造業	1,502 (0.2)	1,910 (27.1)	1,837 (-3.8)	2,104 (21.4)	1,995 (-5.2)	2,779 (39.3)	
同 (船舶を 除く)	1,520 (6.3)	1,741 (14.5)	1,713 (-1.6)	1,815 (6.5)	2,004 (10.4)	2,691 (34.3)	

(注) 経済企画庁調べ。カッコ内は前期(月)比増減(-)率(%)。

等が減少した。

8月の機械受注額は船舶を除く民需で+31.7%(前年同月比+48.5%)、船舶・電力を除く民需で+14.0%(同+24.3%)とそれぞれ3か月連続の増加となった。

業種別にみると、製造業からの受注は、自動車、機械が前月著増の反動から減少したが、反面、石油が備蓄タンクの受注集中から大幅増となり、さらに化学、鉄鋼、繊維等も増加したため+19.1%(前年同月比+23.0%)と前月減少のあと再び増加した。また、非製造業(船舶を除く)からの受注は電力の著増に加え、建設、鉱業も増加したため、+34.3%(同+63.0%)と4か月連続の増加となった。

この間、官公需は、前月発注を集中した防衛庁や国鉄が当月は目立った発注を行わなかったことを主因に-55.0%(前年同月比-11.7%)と3か月ぶりに減少した。

◇8月の小売商況は一服

8月の都内百貨店売上高は-2.1%とかなりの減少となり、前年同月比でも+2.5%と前月(同+4.3%)に比べ伸び率が低下した。これは暑気到来の早まりから夏物商品の売行きが6~7月に伸長したため、8月に入って息切れ気味となり、百貨店側も適品薄状況を来したことが主因とみられる。

品目別には、家庭用品(家具)は堅調を持続した

ものの、6～7月と好伸した盛夏商品(軽衣料、レジャー用品、エアコン)が適品薄もあって売行き一服となったほか、値嵩重衣料(スーツ、ドレス)も月中の猛暑が災いして不振を示した。

9月の乗用車新車登録台数(軽を除く)は+8.6%と4ヵ月ぶりに大幅増加(前年同月比+22.6%、前月同+15.0%)となった。車種別にみると、大衆車が春先から夏場にかけての新車投入が奏効して顕著な増加を示したほか、小型車もこのところの伸びは鈍化しているものの引続き前年を上回る売行きを続けている。

◇商況の基調——総じて弱保合い

9月の商品市況をみると、官公需関連のセメント、合板のほか、非鉄(銅、鉛)も海外相場高等を映じて堅調に推移したのに加え、条鋼類(棒鋼、形

鋼)も流通筋の補充買い等から下げ止りとなったものの、鋼板類、合織、合成樹脂(塩ビ、ポリスチレン)、などが弱保合いを続けたほか、石油製品(C重油、灯油)が大幅下落を示し、天然糸(綿糸、生糸)などは反落するなど、総じてみれば、弱保合いとなった。

これは、①円高に伴う輸入コスト低下をながめてユーザーである輸出関連メーカー等からの値引き要請が強まり、それに抗し切れずに値下りする品目(石油製品、合成樹脂、鋼板類、合織)、がかなりみられたほか、②輸入玉の流入増や輸出の減少懸念(綿糸、合織)、③一部品目(綿糸、砂糖)での季節的な不需求期入りなども市況押下げ要因となった。

もっともこの間、メーカーは需要見合いの慎重

卸売物価指数の推移

(単位・%)

	ウ エ イ ト	53 年		53 年					
		4～6 月平均	7～9 月平均	7 月	8 月	9 月	上 旬 中 旬 下 旬		
							上 旬	中 旬	下 旬
総 平 均	1,000.0	-0.3	- 1.7	- 1.0	- 0.9	- 0.1	0	0	- 0.3
食 料 品	140.9	0.4	0	- 0.2	- 0.2	0.1	0.1	0.1	- 0.4
非食料農林産物	18.9	- 1.3	- 4.7	- 3.2	- 0.7	0.2	- 0.1	0	0.2
織 維 製 品	62.9	1.9	- 0.1	- 0.4	0.2	- 0.1	- 0.1	- 0.1	- 0.3
製 材・木 製 品	33.6	- 0.1	- 0.8	- 0.4	- 0.3	- 0.1	0	0.1	- 0.1
パルプ・紙・同製品	28.9	- 3.3	- 6.1	- 2.6	- 2.7	- 1.7	- 0.1	- 0.2	- 0.8
金 属 素 材	12.6	- 3.2	- 8.6	- 5.7	- 3.6	0.1	- 0.4	0.3	0.8
鉄 鋼	80.7	1.9	- 0.9	- 0.5	- 1.0	0.1	0	0.1	- 0.1
非 鉄 金 属	26.1	- 2.1	- 2.6	- 2.4	- 0.4	0	0	0.2	- 0.2
金 属 製 品	37.0	1.6	- 0.2	- 0.1	- 0.1	- 0.5	- 0.1	0	- 0.4
電 気 機 器	73.3	- 0.9	- 1.1	- 0.5	- 0.2	- 0.2	0	0.1	- 0.2
輸 送 用 機 器	74.0	0	- 1.4	- 0.5	- 1.0	0.6	0.5	0	- 0.2
一 般・精 密 機 器	95.7	0	- 0.6	- 0.4	- 0.2	0.3	0.1	0	0.1
化 学 製 品	91.1	- 1.6	- 1.8	- 0.9	- 0.7	- 0.3	0	0	- 0.4
石 油・石 炭・同 製 品	102.2	- 4.8	- 7.4	- 3.9	- 3.4	- 1.1	0	- 0.2	- 1.2
窯 業 製 品	30.5	1.6	0.7	0.3	0.3	0	- 0.1	0	0.2
電 力・ガ ス	25.5	- 0.7	- 1.0	- 0.5	- 0.4	- 0.2	0	0	- 0.3
雑 品 目	66.1	1.0	- 1.3	- 0.4	- 1.4	- 0.2	- 0.2	0	- 0.1
工 業 製 品	816.4	0	- 1.3	- 0.6	- 0.7	- 0.3	0	0	- 0.3
大 企 業 性 製 品	579.9	- 0.3	- 1.4	- 0.7	- 0.9	- 0.2	0.1	- 0.1	- 0.3
中 小 企 業 性 製 品	214.6	0.5	- 0.5	- 0.2	- 0.3	- 0.2	- 0.1	0	- 0.1
非 工 業 製 品	158.1	- 1.8	- 4.1	- 2.7	- 1.6	0.3	0.2	0.1	- 0.6

(注) 日本銀行調べ。

な生産態度を維持している一方、秋口に入って官公需、個人消費関連(自動車、弱電等)の荷動きも堅調に推移しており、総じて、需給地合いの引緩みはみられていない。

(卸売物価——小幅統落)

9月の卸売物価は、前月比-0.1%と小幅統落、前年同月比では、-3.7%と34年1月(同-3.7%)以来の大幅な下落となった。

品目別には、輸送用機器(輸出向け小型自動車、普通トラック)、一般・精密機器(輸出向け建設用トラクター、旋盤)、非食料農林産物(綿花、牛皮)等輸出入品が円高調整値上げや海外高を映じて上昇したものの、石油・石炭・同製品(C重油、灯油)や化学製品(エチレン、キシレン)が原料コスト安を主因に、またパルプ・紙同製品(ライナー、段ボール原紙)などが販売競争からそれぞれ下落した。

(消費者物価——9月<東京都区部、速報>は大幅上昇)

9月の消費者物価(東京都区部、速報)は、総合

で+1.3%と大幅上昇となった。

これは、被服が秋冬物衣料の出回り、また野菜・果物等の季節商品が干ばつの影響等からそれぞれ大幅に値上りしたためである。もっとも、前年の9月(前月比+1.6%)に比べると、米価の据置き等もあって上昇は比較的小幅にとどまり、前年同月比では+4.3%と前月(同+4.6%)に比べ上昇率は低下した。また、季節商品を除く総合では、+3.8%と42年9月(+3.3%)以来の低い上昇にとどまった。

◇総合収支は黒字幅縮小

8月の国際収支は、貿易収支、経常収支とも黒字幅を縮小、長期資本収支も引続き大幅流出超となったため、総合収支では346百万ドルと前月(黒字853百万ドル)に比べ黒字幅を縮小した。

経常収支は、貿易収支が輸出の季節的な減少と輸入の増加から黒字幅を縮小(1,987百万ドル、前月2,705百万ドル)したうへ貿易外収支も旅行収支の大幅な支払超等から引続き高水準の流出超となったため1,286百万ドルの黒字と前月(1,967百万ドルの黒字)をかなり下回る黒字にとどまった。

長期資本収支は、外国資本が対日債券投資の処分超持続等から引続き流出超となったうへ、本邦資本も、世銀等に対する現地貸の実行集中や国際機関への出資等から大幅な流出超を続けたため1,275百万ドルと既往第3位の流出超となった。

一方、短期資本収支は、石油関係シッパーズ・ユーザンスなど民間貿易信用の享受増に加え、国際機関に対する出資拠出金の一時滞留もあって277百万ドルの流入超となった。

消費者物価指数の推移

(単位:%)

	ウェイト	53年		53年			最近月の前年同月比	
		4~6月平均	7~9月平均	7月	8月	9月		
東 京	総合	100.0	2.1	0.7	0.9	0	* 1.3	* 4.3
	季節商品を除く総合 (季節商品)	91.9 (8.1)	1.8 (4.7)	0.4 (4.6)	0.4 (6.8)	-0.4 (5.3)	0.9 (* 5.3)	3.8 (* 9.6)
	食料	40.1	1.5	1.4	1.6	1.3	* 1.3	* 4.3
	住居	11.1	1.5	1.1	0.8	-0.1	-0.1	4.2
	光熱	4.2	0	0	0	0	0	-0.3
京	被服	12.4	2.5	-0.4	-0.2	-4.1	6.8	4.7
	雑費	32.2	2.9	0.5	0.6	0.1	0.1	5.0
全 国	総合	100.0	2.0	...	0.4	0.1	...	4.2
	季節商品を除く総合 (季節商品)	91.7 (8.3)	1.7 (5.3)	...	0.2 (2.4)	-0.6 (7.6)	...	3.7 (9.0)
	農水畜産物	16.3	2.7	...	1.3	4.7	...	6.1
	工業製品	46.6	1.4	...	0.2	-1.6	...	2.4
	うち大企業性製品	21.4	0.1	...	0.3	-0.3	...	0.5
特殊分類	サービス	25.2	2.4	...	0	-2.6	...	4.2
		33.6	2.7	...	0.5	0.1	...	5.4

(注) 1. 総理府統計局調べ。
2. *は速報。

国 際 収 支

(単位・百万ドル)

	52 年	53 年		53 年			前年 8 月
	10~12月	1~3月	4~6月	6 月	7 月	8 月	
経 常 収 支	4,581	3,971	4,579	2,265	1,967	1,286	669
貿易 収 支	6,011	5,755	6,532	2,935	2,705	1,987	1,074
輸 出	22,243	21,547	23,261	7,954	8,159	7,895	6,424
輸 入	16,232	15,792	16,729	5,019	5,454	5,908	5,350
貿易 外 収 支	△ 1,360	△ 1,669	△ 1,755	△ 617	△ 684	△ 658	△ 393
移 転 収 支	△ 70	△ 115	△ 198	△ 53	△ 54	△ 43	△ 12
長期 資 本 収 支	△ 1,176	340	△ 3,620	△ 1,117	△ 1,413	△ 1,275	△ 379
本 邦 資 本	△ 2,081	△ 2,844	△ 3,559	△ 1,139	△ 1,283	△ 1,033	△ 421
外 国 資 本	905	3,184	△ 61	22	△ 130	△ 242	42
基礎 的 収 支	3,405 (2,167)	4,311 (5,839)	959 (1,223)	1,148 (1,176)	554 (△ 2)	11 (147)	290 (379)
短期 資 本 収 支	129	239	△ 52	△ 533	98	277	103
誤 差 脱 漏	479	394	△ 215	△ 39	201	58	△ 101
総 合 収 支	4,013	4,944	692	576	853	346	292
金 融 勘 定	4,013	4,944	692	576	853	346	292
外 貨 準 備 増 減	4,980	6,360	△ 1,877	△ 378	2,035	△ 163	128
そ の 他	△ 967	△ 1,416	2,569	954	△ 1,182	509	164
外 貨 準 備 高	22,848	29,208	27,331	27,331	29,366	29,203	17,767
為 銀 対 外 ポ ジ シ ョ ン	△12,408	△14,560	△11,977	△11,977	△13,306	△12,456	△12,230

- (注) 1. 基礎的収支カッコ内は、貿易収支のみ季節調整した計数。
 2. 短期資本収支は金融勘定に属するものを含まない。
 3. 金融勘定の△印は純資産の減少。

輸 出 入 指 標 の 推 移

(季節調整済み、単位・百万ドル)

	国際収支ベース			通 関		輸 出	輸 出	輸入承認・
	輸 出	輸 入	貿易じり	輸 出	輸 入	信用状	認 証	届 出
52 年 10 ~ 12 月	6,903 (+ 3.4)	5,312 (+ 1.8)	1,591	7,058 (+ 4.0)	5,959 (+ 0.7)	4,983 (+ 4.0)	7,547 (+ 4.2)	6,005 (+ 4.6)
53 年 1 ~ 3 月	7,811 (+ 13.2)	5,383 (+ 1.3)	2,428	7,839 (+ 11.1)	6,171 (+ 3.6)	5,279 (+ 5.9)	8,078 (+ 7.0)	6,054 (+ 0.8)
4 ~ 6 〃	7,759 (- 0.7)	5,494 (+ 2.1)	2,265	7,910 (+ 0.9)	6,314 (+ 2.3)	5,357 (+ 1.5)	8,132 (+ 0.7)	6,493 (+ 7.3)
53 年 5 月	7,965 (+ 6.8)	5,931 (+ 4.8)	2,034	8,067 (+ 5.5)	6,840 (+ 7.7)	5,319 (- 0.9)	8,300 (+ 6.6)	6,372 (- 3.3)
6 〃	7,857 (- 1.4)	4,894 (- 17.5)	2,963	8,016 (- 0.6)	5,754 (- 15.9)	5,385 (+ 1.2)	8,313 (+ 0.2)	6,516 (+ 2.3)
7 〃	7,709 (- 1.9)	5,560 (+ 13.6)	2,149	7,844 (- 2.1)	6,200 (+ 7.8)	5,428 (+ 0.8)	7,846 (- 5.6)	6,772 (+ 3.9)
8 〃	8,146 (+ 5.7)	6,023 (+ 8.3)	2,123	8,413 (+ 7.2)	6,886 (+ 11.1)	5,491 (+ 1.2)	8,837 (+ 12.6)	6,959 (+ 2.8)

- (注) 1. 四半期計数は月平均。
 2. カッコ内は対前期(月)比増減(-)率(%)。
 3. 輸出信用状接受額および輸入承認・届出額は、特殊大口を除く。

なお、8月の貿易収支を季節調整済み計数で見ると輸出(8,146百万ドル)が、前月比+5.7%と3か月ぶりに増加した一方、輸入(6,023百万ドル、既往最高)も原油を除く一般品目の高伸から+8.3%と増加したため収支じりは、2,123百万ドルとほぼ前月(同2,149百万ドル)並みの黒字となった。

この間、外貨準備高は、外貨預託の増額もあって月中163百万ドル減少し、月末残高は29,203百万ドルとなった。

(輸出——増加)

8月の輸出(国際収支ベース)は、+5.7%(原計数の前年同月比では+22.9%の増加)と、前2か月(6月-1.4%、7月-1.9%)減少のあと増加した。

品目別(通関ベース)にみると、重電機器、テレビ、繊維・同製品等が減少したものの、化学製品、鉄鋼、事務用機器、ラジオ、自動車、二輪自動車、光学機器、テープレコーダー等が価格の大

幅上昇もあってかなりの増加となった。

地域別には、西欧、中近東、アフリカ向けが減少した反面、中国、ソ連等共産圏向けが著増をみたほか、米国、東南アジア、中南米向け等も増加した。

輸出信用状接受高(季節調整済み前月比)は、8月(+1.2%)に続き9月も+0.7%と増加した。

(輸入——増加)

8月の輸入(国際収支ベース)は、前月比+8.3%と前月(+13.6%)に引続きかなりの増加となった(原計数の前年同月比+10.4%)。

品目別にみると、小麦、砂糖、綿花、鉄鉱石、大豆等は減少したものの、魚介類、とうもろこし、羊毛、鉄鋼くず、木材、石炭、航空機等が増加した。

輸入承認届出額(特殊大口除外)は、8月(+2.8%)に続き9月も+1.1%と増加した。